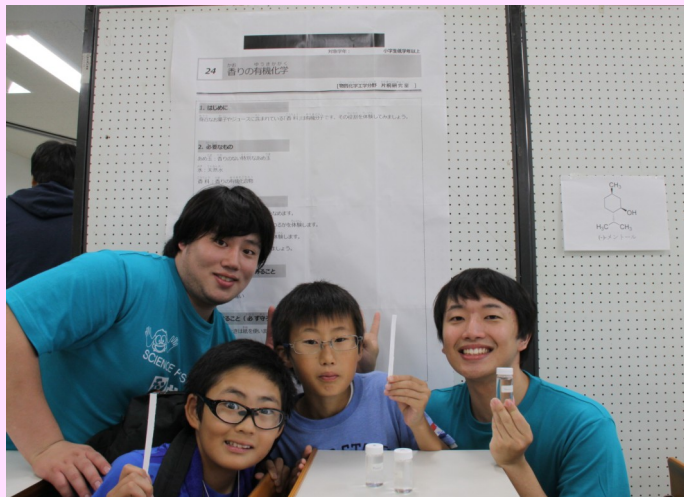


工学部新聞 NO.18

平成27年10月発行

夏の思い出特集!

老若男女を科学で魅了! 新・夏の風物詩「科学フェスティバル」



物質化学・片桐研の学生

×

科学フェスティバル常連の仲よし中学生



応用生命・新関研の学生

×

山大工学部に入りたい弟ちゃんと理科が大好きなお姉ちゃん

～目次～

1ページ

- ・老若男女を科学で魅了!
新・夏の風物詩
「科学フェスティバル」

2、3ページ

- ・夏だよ!みんな集合!
オープンキャンパス2015
- ・突撃!となりの留学生!!
～第2弾～
- ・飯塚教授
工学部長3期目決まる

4ページ

- ・取材に協力してくださった
方々
- ・お詫びと訂正
- ・編集後記

7月25日(土)・26日(日)、本キャンパス4・5号館を中心に科学フェスティバルが開催されました。今年で8回目となり、この時期の恒例行事として根付き始めています。

本キャンパスの学生・教員のみならず中高生や地域の方もブースを出し、世代や性別問わず科学を楽しむ気持ちはひとつに会場を盛り上げていました。

小・中学生に話を聞いてみたところ、「山大工学部にいきたい!」「小学生の頃から理科が好きなので、このイベントはとても楽しい。」等、“理系離れ”の俗説とはほど遠い、頼もしい回答が。「親子共々毎年楽しみにしています。」「生き物や筋電図等を扱っているところもあり、工学部の新しいイメージを得ることができました。」と、保護者の方にも好評でした。

スタッフとして活躍していた山大学生からは「子供たちの笑顔を見ることができてよかったです。」「自分の担当するブースは電池を扱っています。この2日間で将来電池を学びたいと思う人が100人増えれば嬉しいです。」「説明するときはできるだけわかりやすく伝えるよう心掛けました。彼らが純粋に接してくれてくれたおかげで自分たちも楽しむことができました。」等の声がありました。

異世代間のほほえましい触れ合いを見ることができると、このイベントの醍醐味。ブースの去り際に共に記念写真を撮る光景が随所で見られ、夏の思い出がまたひとつ増えたようでした。

夏だよ！みんな集合オープンキャンパス2015！！

8月7日（金）、山形大学工学部にてオープンキャンパスが開催されました。今年は、1061人が来場！学科説明会や模擬講義、施設・研究室見学、各相談コーナー、各種サークル紹介など、学生と教員や職員が一つになって会場を盛り上げていました。学部3年生にとっては研究室選び、高校生にとっては大学選びと参加の動機はさまざま。そこで訪れた高校生に話を聞きました。

「研究室の雰囲気を知ることができてとても勉強になりました。」（新潟県・男子）

「資料ではわからないことが実際に来ることによってわかったし、興味のある研究室のことをより知ることができておもしろかった。」（山形県・男子）

大学の雰囲気や研究室の様子を自分の目で確かめることで実感を得られたようでした。



（研究室を見学してる高校生）



（研究室の説明を受けている学部3年生）

来年、学部3年生になる方にとって、研究室選びは今後の進路に大切な選択だと思います。是非、自分の将来を探しに参加してみてください。



（山形大学の説明会に参加してる高校生や保護者）



（大学紹介をしている新聞部の土屋さん）

工学部について語る飯塚博学部長



○飯塚博教授
昭和53年に秋田大学鉱山学部機械工学科卒業。昭和55年に同大学院鉱山学研究所修士課程修了。専門分野は機械材料、材料力学、設計工学、機械要素・トライボロジー。山形大学に着任して25年、工学部長としては5年目になる。趣味はスキー。好きな食べ物はお肉、ライスとコロッケ。休日は奥様と車で出かけているそうです。

良い人材供給に貢献したい」と教育内容の改善も検討しています。
最後に学生に向けて、「スマホやパソコンで手に入れた情報だけで知った気になってほしくない。理論や観察・分析といった科学の知識、色んな経験を大事にしてほしい」とメッセージを送りました。

突撃！となりの留学生！！～第2弾～



9月30日に学位記授与式を迎えた
ポコレイ チョケ ルイス フェルナさん

第2弾となりましたこの企画、題して“突撃！となりの留学生！！”。山形大学に在籍する200人もの留学生、彼らの事を知って仲良くなるきっかけを作るべく考案されました。今回はポリビア出身のポコレイ チョケ ルイス フェルナさんに突撃インタビュー！彼はものづくり技術経営学（MOT）専攻で生産技術に関する知識・技能に加え、企業経営に関するマネジメントの知識・技法を学んでいます。

Q：山形大学に留学しようと思った理由は？

A：日本のドラマやドラえもん、ナルトなどのアニメが自国で放送していたことから日本に興味をもちました。私の在籍する大学は、日本では唯一山形大学と交換留学協定を結んでいたことからこちらへ留学しました。自国では日本のマンガは売られていなかったのこちらに来てすぐにたくさん買い、日本語の勉強に活用しました。

Q：日本の文化との違いは？

A：ポリビアは内陸部に位置するため魚があまり新鮮ではなく、生の魚を食べる習慣がありません。日本で初めて刺身を口にするときは少し抵抗がありましたが、食べてみたらおいしかったので好きになりました。また、学童保育施設でアルバイトをしたことがあるのですが、自国にはこのようなアルバイトがありません。親や親族が子供の面倒を見るからです。日本の子供たちはもっと親と触れ合いたいのではないかと思いました。

Q：今後の抱負

A：まずは日本語を家族や周りの人に教えたいです。それからポリビアの大学で働き、自分の学んだ電気工学の技術と共に学生にも日本語を教え、彼らの将来の幅を広げたいです。JICA※(ジャイカ)にも参加し、自国と日本語をつなぐ懸け橋になりたいです。

帰国するときのお土産は“電子辞書”と話すルイスさん、家族のために3台買うとのこと。ポリビアに電子辞書は無く、インターネットの普及率も低いようです。「知識が一番大事」という言葉が印象的でした。育つ環境が違っていると話していてとても面白いです。9月30日(水)にはルイスさんを含む12名の留学生が学位記を授与し少し寂しくなりましたが、31日(木)には新しく9名が入学し、また賑やかになりそうです。皆さんも留学生と話をしてみませんか？

※JICA…日本の政府開発援助（ODA）を一元的に行う実施機関として、開発途上国への国際協力を行う。「すべての人々が恩恵を受けるダイナミックな開発」というビジョンを掲げ、多様な援助手法のうち最適な手法を使い、地域別・国別アプローチと課題別アプローチを組み合わせ、開発途上国が抱える課題解決を支援する。 参) 独立行政法人国際協力機構ホームページ

飯塚教授 工学部長3期目決まる

「より実践的な教育目指す」

9月から飯塚博教授（機械システム工学分野）が三期連続となる工学部長に就任しました。これまで学内選挙で決められていた学部長でしたが、去年着任した小山清人学長の方針変更により学長の決定で任命されました。今回は飯塚学部長に今後の工学部の目標や方針を聞きました。

「世の中の大学に対する要求は時代とともに変わっている。それに伴い大学や先生の役割も変わっていかなくてはならない」と現状の課題を話す飯塚学部長。「山形大学工学部の強みである有機材料や有機エレクトロニクスをもっと目立つようにしたい。加えて、化学・情報・機械などの分野の教育研究環境も最先端の研究に学生を巻き込んでいきたい。研究施設はそろってきたので、今後は実際にものに触れたり、企業との関わりを持つといったより実践的な教育を考えていきたい」と今後の取り組みについて力強く語りました。

すでに来年度から「有機材料システム研究科」の新設が決定しています。有機分野に力を入れていくということが外部からみてもわかりやすくなり、アピールできるとのこと。「基礎学力に加えて、発想力、チームで働く能力といった実践力を強化、先生や企業とともに行動し経験を積むような内容」がポイントです。

工学部新聞No.17で「山形大学人力飛行機研究会Craft-Pal」が7月25、26日に開催された「第38回鳥人間コンテスト2015」に出場することをお伝えしましたが、エンジン部分の故障により、残念ながら出場することができませんでした。

次号のサークル紹介でCraft-Palの想いや今後の課題などをお伝えします！

取材に協力してくださった方々

※D=博士後期課程、M=博士前期課程、B=学部 学年は一部今年度のものを掲載しています。

うめつ かん
梅津 寛さん

機械システム工学科 (B4)
(福島県立須賀川桐陽高校)

こむろ なおと
小室 直人さん

物質化学工学科 (B4)
(栃木県立大田原高校)

ほんだ あつや
本田 敦哉さん

物質化学工学科 (B4)
(山形県立高島高校)

写真

応用生命システム工学科 物質化学工学科
新聞研究室のみなさん 片桐研究室のみなさん

1ページ

いいつか ひろし
飯塚 博 学部長

機械システム工学分野

2,3ページ

ホコイ チョウ ルス フェルケさん

ものづくり技術経営学専攻 (M2)

4ページ

お詫びと訂正

工学部新聞No.17の紙面p2,3において代表者の名前に関連がありましたことを深くお詫び申し上げます。鎌田修史(かまだ のりふみ)さんとしていましたが、正しくは(かまだ まさふみ)さんです。大変失礼いたしました。

編集後記

皆さん、はじめまして。

昨年12月から工学部新聞部に入りました、機能高分子工学科4年の山下豪です。今回はオープンキャンパスの記事を担当させていただきました。オープンキャンパスの当日、私は研究室で高校生に研究室の説明をしたり、学部3年生に研究室を案内・説明したりしていました。特に、研究室に来る学部3年生の姿を見てみると、去年の私を思い出します。研究室を訪問して、自分自身の目で研究室の様子や雰囲気を見ることは、大切であると改めて実感させられました。このことは大学の研究室見学だけにとどまらないと思います。就職活動の企業分析も同じような気がしました。この記事を通して、みなさんに研究室見学の大切さをお伝えすることができたなら幸いです。

工学部新聞はこれからも皆様の大学生活のためになる情報を発信していきます。学内だけでなく学外にも山形大学の職員の方による高校訪問やインターネットを通して発信しております。是非、皆様のご意見・ご感想をお願いいたします。また、取材に来てほしいという方は下記の連絡先までお願いいたします。

これから、寒さがまして、米沢の冬がやってきますが体調管理にはくれぐれもお気をつけてください。最後まで読んでいただきありがとうございます。次号も読んでください！！

「為せば成る為さねば成らぬ何事も成らぬは人の為さぬなりけり」 (上杉鷹山)

2015年度工学部新聞部メンバー

- 土屋みなみ(応用生命システム工学科4年)…新聞部4年目。紙面p1の「老若男女を科学で魅了！科学フェスティバル」担当。
- 菅野育美(バイオ化学工学専攻1年)…新聞部3年目。紙面p3の「突撃！となりの留学生！！～第2弾～」担当。
- 渡邊健一郎(機能高分子工学科3年)…新聞部2年目。
- 荒引陽(応用生命システム工学科3年)…新聞部2年目。
- 山下豪(機能高分子工学科4年)…新聞部1年目。紙面p2の「夏だよ！みんな集合オープンキャンパス2015！！」担当。
- 蒲地勇治(物質化学工学科3年)…新聞部1年目。紙面p2、3の「飯塚教授 工学部長3期目決まる」担当。
- 高橋佑佳(機械システム工学科2年)…新聞部1年目。

新聞部に興味のある方は下記の連絡先までお気軽にご連絡を(^o^)/お待ちしております！

☆各種の活動や受賞、表彰などを掲載させていただきます。

連絡先→Tel: 0238-26-3419

E-mail: koukoho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

☆本誌のカラー版がPDFでご覧になれます。山形大学工学部新聞で検索！

ホームページ→<http://www2.yz.yamagata-u.ac.jp/shinbun/index.html>